

八王子千人塾レポート集一覧(年度別)

年度	レポートタイトル	制作者
平成 16	「千人同心に会いに行こう」	川西 蓉子 廣瀬 クニ子 吉田 しづ子
	『華嚴菩薩伝記』を読む	宮下 純
	大久保石見守長安と信玄の娘松姫 (二人の間に淡き恋心ありや)	三浦 洋子
	大久保石見守長安とその時代	山本 富啓
	多摩御陵	都丸 征将
	「政治」って何だろう	岸 悦男
	高尾のカツラ(桂)	大岡 平八郎
	八王子織物の源流 滝山横山紬嶋 は幻か	松岡 芳朗
	酒造りのしくみと野生酵母の発酵性	今井 司
	米にこだわる	森松 幹治
	詩人 八木重吉	佐々木 繁
H17	神仏習合でみえるもの —江戸後期八王子の寺院持ち神社の資料を基にして—	久能 博孝
	ト山和尚の詩心・禅心	宮下 純
	斎藤 一諾斎について	柳澤 直樹
	八王子千人同心 武蔵国多摩郡犬目村の千人同心について	鈴木 俊博
	家光変身	町田 富男
	松姫と千人同心 —甲斐の国から八王子へ—	村田 房雄
	浅川に架かる橋について(共同研究)	佐々木 繁 久能 博孝 岸 悦男 嶋崎 恵匡 森松 幹治
	国会議員の罪と罰 —戦後60年間に何が行われていたか—	岸 悦男
	尾根緑道はどのようにして出来たか —地球と日本の地史—	大野 義郎
	大気の成分変化と生ごみに堆肥化	今井 司
	飲料水について (水道水を安心して飲むために)	東 陽一
	豊かさを求めて 第一部 水の文化の行方	小山 文雄
	幻の城「八王子城」のCGにチャレンジ(未完)	竹川 功三郎
	日本の農業を考える その1 「食の安全」を目指すアイガモ農法	森松 幹治
	八王子市の桑樹の分布調査	松岡 芳朗
	絹の道	嶋崎 恵匡
	彫刻の巨匠 平櫛田中	佐々木 繁

年度	レポートタイトル	制作者	
H18	「ボブ・グリーン」の著作から 文化とは何か—図書館の役割について	平原 俊彦	
	日本人はどこからきたのか 日本人と日本文化の誕生	青島 寿治	
	大久保石見守長安とその時代Ⅱ	山本 富啓	
	歴史の街触れ合いの街館町	竹内 稔	
	旧「由木村」の古道を尋ね社寺を訪ねる	山田 守	
	八王子の貢馬の道	根岸 幸雄	
	共同研究 高尾(山)の天狗さま	立原 健司 佐々木 繁	
	武蔵野台地の崖・国分寺崖線	小山 文雄	
	水を育む山々 —浅川(水系)—	高橋 浄	
	根粒菌とマメ科植物との共生、そして アミノ酸及びタンパク質について	今井 司	
	高尾山の花名さがし —初心者がさがし易いホームページの作成—	遠藤 進	
	消え去ったものシリーズ『水車』 昔、浅川には沢山の水車が回っていたそう	竹川 功三郎	
	八王子織物産地は甦るか 〈技術史的視点から〉	松岡 芳朗	
	米にこだわる 第3部 イネの副産物(わら・米ぬか)を通して 脱工業化社会を考える その1 第10回図書館を使った“調べる”学習コンクール佳作入選作品	森松 幹治	
	万葉歌碑にみる「多摩の横山」と「防人」 童謡「赤とんぼ」	齋藤 益弘 佐々木 繁	
	H19	共同研究・多摩御陵 第1部 なぜ八王子だったのか 第2部 幻の鉄道 御陵線を探る 第3部 多摩御陵完成後の高尾周辺の町の様子	小山 文雄 齋藤 益弘 根岸 幸雄 町田 富男 村田 房雄 岸 悦男 立原 健司 佐々木 繁 都丸 征将 東 陽一
		とんとんむかしばなし 八王子城・落城のこと	岡 光子
横山村の近代化のあゆみ		毛利 宏	
市議会傍聴記(1)		久能 博孝	
江戸初期と明治初期の監獄事情		石田 宗男	
水を育む山々 玉川上水の水(東京都)		高橋 浄	
遺伝のしくみについて —DNA, RNAのはたらき—		今井 司	
八王子の煉瓦工場		根岸 幸雄	
蚕神、機守様の民間信仰について		松岡 芳朗	
キューバ(国)に於ける有機農業と市民農園の展開		佐々木 繁	
経済的でより簡易な蘭の無菌培養を探して—途中経過報告—		政木 敏郎	
鈴木信太郎画伯の「みどり」について		榊原 三恵	
偉大な風景写真家 前田真三 私に教えてくれたもの		谷藤 賢一	
幻の児童文学—少年講談		岸 悦男	
戦後、青年の文化活動、その一端		吉岡 利昭	
宮沢賢治は、なにを願っていたか		森松 幹治	

年度	レポートタイトル	制作者
H20	共同研究 八王子市内の東照宮(徳川家康を祀る神社)	柳澤 直樹 齋藤 益弘 根岸 幸雄
	高尾山薬王院 滝行	上田 恵弘
	共同研究 徳川家と千代田稲荷神社	柳澤 直樹 根岸 幸雄
	「旧甲州道中と八王子宿」	塩見 幸市
	八王子ランドセル地蔵 ケンチャンは神尾明治君だった!	竹内 稔
	八王子城主氏照とト山和尚	松岡 芳朗
	道灌の江戸城・家康の江戸城	山田 守
	共同研究 なぜ八王子なのか —“八王子”地名の由来とその検証—	岡 光子 小山 文雄 春本 高夫 東 陽一 平原 俊彦 町田 富男 村田 房雄 毛利 宏
	ハニホヘトイロハの歌 —国民学校の芸能科音楽—	岸 悦男
	八王子の山車まつり ～江戸時代から続く街の文化財～	加藤 利雄
	むかしばなし雪女について	勝又 光子
	生命の誕生とさまざまな生命活動	今井 司
	宮沢賢治と、食を考える	森松 幹治
	街路樹物語	谷藤 賢一
	水を育む山々 玉川上水の水(山梨県)	高橋 浄
	調べ学習『辞書』	佐々木 繁
	鬼平犯科帳と長谷川平蔵	石田 宗男
	漱石の俳句によせて“食を選ぶ”	勝又 光子
	松原庵榎本星布のこと	平原 俊彦
	松尾芭蕉と檜笠	古川 浩

年度	レポートタイトル	制作者	
H21	千代田稲荷Ⅱ	根岸 幸雄	
	戦艦大和と生系の輸出	松岡 芳朗	
	共同研究 らくだ 駱駝が八王子にやってきた	岡 光子 根岸 幸雄 町田 富男 村田 房雄	
	人見四郎入道恩阿は横山党の末裔だろうか	藤本 隆之	
	千人頭ゆかりの寺	山田 守	
	明治・大正・昭和の“八王子”の変遷 —行政区域の改革を中心に—	毛利 宏	
	村が消えてゆく (平成の大合併＝村の数の変化)	佐々木 繁	
	立木登記における「この木なんの木、気になる木」	秋山 正勝	
	宮沢賢治と世界同時不況を考える	森松 幹治	
	八王子市の小・中学校の校章と校歌	村野 典子	
	吃音は治ります	石田 宗男	
	原子の構造とさまざまな元素の生成	今井 司	
	嘉永3年(1850)の多摩、八王子種痘までのこと	勝又 光子	
	水を育む山々—秋川(水系)と平井川—	高橋 浄	
	共同研究 「桑の都」八王子の美称	岸 悦男 佐々木 繁 都丸 征将 松岡 芳朗	
	多摩の雑木林と鎮守の森	青島 寿治	
	八王子グルメ店名ネーミングの由来	山崎 正人	
	共同研究 幻の御陵線を探る	岸 悦男 小山 文雄 立原 健司	
	八王子出身力士 八光山権五郎	塩見 幸市	
	谷崎純一郎『細雪』を読む 『細雪』試論への一視点 女中「お春」をめぐる	岡 光子	
	童謡詩人・中村雨紅の故郷	加藤 利雄	
	おじいさんの山いもといのしのおはなし	小山 英夫	
	H22	「八王子千人同心と日光脇街道」	塩見 幸市
		大久保石見守長安とその時代Ⅲ	山本 富啓
		—市民として、—末裔として 千人同心についての一考察	原川 哲夫
		湯殿川沿いの謎	根岸 幸雄
水を育む山々—「延喜式」東海道・甲斐路を調べる(要旨)		高橋 浄	
直江兼続の最初で最後の失策		こやま ひで	
日本の人口(少子・高齢化)		小花 五郎	
国の統計資料他を読んで日本の財政と税制を考える		森松 幹治	
八王子の福祉事業の源流と今日的課題について		松岡 芳朗	
本草の桑と食文化の桑		村野 典子	
江戸時代の女性、旅について		勝又 光子	
驚異のカルシウムの世界—基本から先進情報まで—		今井 司	
「アルコール依存症」を調べる		石田 宗男	
ジャガイモにつきちょっと調べたこと		藤本 隆之	
「ジャガイモ、馬鈴薯、POTATO」		富岡 喜久雄	
唱歌の源流を探る		岸 悦男	
『対話』について(漢字に学ぶ)		佐々木 繁	
八王子にある松尾芭蕉句碑巡り		加藤 利雄	
真鍋呉夫の句集『底本雪女』を読む—相互テキスト性について—		岡 光子	

年度	レポートタイトル	制作者
H23	高尾山おもしろ百科 —おもしろい話題の本出版—	遠藤 進
	相州古道は「鉄」の道	榊原 信夫
	「三田村鳶魚は千人同心末裔か 考」	原川 哲夫
	歴史的文化遺産の尊さ 武州下原鍛冶を調べてみて	山中 廣志
	八王子困民党(武相困民党)について	勝又 光子
	新編武蔵風土記稿巻之百七 / 多摩郡之十九 小宮領 犬目村(現・八王子市犬目町)の史跡しらべ	鈴木 俊博
	八王子市内の馬場跡に付いて	根岸 幸雄
	小野路街道の痕跡を探る	山田 守
	八王子の介護保険・介護について	松岡 芳朗
	いちよう街道レポート「もう一つの中高校生クイズ試作」	高橋 りう司
	「七福神巡りと八王子八福神」	塩見 幸市
	2℃の温度上昇での出来事	藤本 隆之
	水を育む山々 (相模川の水)	高橋 浄
	3・11大震災と火山活動	今井 司
	江戸の橋考「墨田五橋物語」	藤野 厚
	エネルギー政策を考える—国と原子力関連団体他資料を読む—	森松 幹治
	草履づくり—エコ運動のシンボル 道具不要、高齢者・子どもたち、だれでも、どこでも作れる	村野 典子
	唱歌はつづくよ いつまでも	岸 悦男
	松本清張に学ぶ	石田 宗男
	横光利一『上海』を読む —新感覚派文学手法についての考察—	岡 光子
山頭火の句碑と俳号のこと	佐々木 繁	
H24	方角を気にする氷川神社 (アラハバキ神と高尾にある氷川神社を考える)	榊原 信夫
	草莽の志士・清川八郎と明治維新 幕末維新前期を先駆けた庄内郷土	藤野 厚
	太平洋戦争の思い出	根岸 幸雄
	桑都・八王子の萩原橋	村野 典子
	「幕末時代の八王子千人同心と新選組」	塩見 幸市
	武州下原刀の製作過程について	松岡 芳朗
	江戸の無宿者と昭和の思想犯・宗教団体	石田 宗男
	消費税増税を考える —国の財政・税制関係資料を読む—	松森 幹治
	太陽の内部構造と黒点の測定	今井 司
	水を育む山々 (藤ノ木・愛川構造線の水)	高橋 浄
	終末期医療と増大する医療費に対する—考察	山中 廣志
	「江戸の呑みだおれ」考察 江戸期における下り酒と関東地回り酒について	若槻 健一
	和食について	勝又 光子
	繭と絹織物	岡 光子
	悲しみのAcacia	佐々木 繁
	中央線走る	大沼 一夫
	三多摩唱歌 —明治時代の多摩地域周遊唱歌—	岸 悦男
	三浦哲郎の母	岩佐 直美

年度	レポートタイトル	制作者
H25	ペイする自費出版	遠藤 進
	調べ学習 高尾山の遠い昔の話 第17回図書館を使った調べる学習コンクール優良賞入賞作品	佐々木 繁
	南蛮人との出会い	石川 浩
	維新と職業について	根岸 幸雄
	明治維新と八王子千人同心	塩見 幸市
	新編武蔵風土記稿巻之百七 多摩郡之十九 八王子・川口村にあった神社・寺院の「今」を調べる	鈴木 俊博
	「歴史ある町並み」について	若槻 健一
	昭和の大事件を追って	石田 宗男
	「バランスシート不況の経済学をもとに、 昭和から平成への移行時に起きた日本経済の変容を考える	森松 幹治
	日本の自然災害 M8.0大地震襲来	岡 光子
	八王子の富士塚考	村野 典子
	東京の谷戸の運命	榊原 信夫
	水を育む山々(霊峰富士の湧水)	高橋 浄
	盆栽 —継承される伝統美—	岩佐 直美
	激しく変わった日本の植生 —日本の植生の荒廃と回復の歴史を探る—	青島 寿治
	三多摩唱歌(2) —明治時代の多摩地域周遊唱歌—	岸 悦男
H26	昭和の事件簿	石田 宗男
	千人同心の蝦夷地への移住	佐々木 繁
	所得格差を考える —国税庁・統計情報及び、財務省・法人企業統計他資料を読	森松 幹治
	日本の自然災害 M8.0巨大地震襲来	岡 光子
	江戸の食文化—文化・文政期の繁栄	若槻 健一
	明治期以降の喪服の変遷について	根岸 幸雄
	水を育む山々(大陸移動説前後～現在)	高橋 浄
	共同研究『絹の道』興廃(この道の賑わいは、いかにして始まり、いかにして終わったか)	都丸征将 佐々木 繁
	共同研究:八王子市の古街道 案下道(佐野川往還)	塩見 幸市 岩佐 直美

年度	レポートタイトル	制作者	
H27	関東平野における「女体神社」の分布	榊原 信夫	
	二・二六事件を見つめて	石田 宗男	
	八王子に空襲があった	根岸 幸雄	
	共同研究: 昭和敗戦の原因の分析		根岸 幸雄
			岸 悦男
			石田 宗男
			塩見 幸市
			山本 勝彦
		若槻 健一	
		高橋 りう司	
	調べ学習の楽しみ	高橋 浄	
	江戸の野菜考(江戸っ子の野菜の話)	佐々木 繁	
	箸を調べる	根岸 幸雄	
初めて太平洋を渡った船	石川 浩		
江戸の地廻り経済と多摩の酒造り	若槻 健一		
戦後の農地改革	塩見 幸市		
共同研究: 八王子市を走る古街道一経路と役割		根岸 幸雄	
		毛利 宏	
		塩見 幸市	
		若槻 健一	
		岩佐 直美	
	櫻田 幸久		
	水田 正憲		
高瀬舟と高瀬川のこと	佐々木 繁		
H28	八王子鑓水にある子の神社のルーツを探る	榊原 信夫	
	共同研究: 高等学校における近現代史の学び方(提案)		岸 悦男
			毛利 宏
			森岡 喜久雄
			塩見 幸市
			高橋 りう司
			若槻 健一
			櫻田 幸久
			山本 勝彦
	「軍都」相模原について	久保 正晴	
	朝鮮半島南部の「伽耶諸国」と倭国の交流(その1)	岡山 勅己	
	岩佐又兵衛	岩佐 直美	
	郷土誌に見る江戸後期の八王子周辺の経済事情	若槻 健一	
愛と思いやり それはケア	野吾 孝義		
日中韓歴史教科書比較(近現代史)	塩見 幸市		
掛け声について	根岸 幸雄		
水を育む山々(二水系の山地と丘陵帯と一)	高橋 浄		
日本初の洋式帆船の誕生	石川 浩		
送り仮名の付け方と国語国字表記の歴史	矢巻 尚司		

年度	レポートタイトル	制作者
H29	桑都の神々「新編武蔵風土紀稿」に見る神々と現代	岡山 勅己
	八王子宇津貫村 総鎮守「第六天神社」を調べていて考えたこと	榊原 信夫
	古代朝鮮半島に見る遺跡と倭国(日本)とその交流	岡山 勅己
	伊藤博文は本当に韓国併合を考えたのか？	岡山 勅己
	紀元節と紀元2600年	塩見 幸市
	近現代史における明治憲法	若槻 健一
	賀川豊彦－日本の協同組合の父	岩佐 直美
	共同研究。消えゆく多摩織－生き残る道を探る	大沼 一夫 岡山 勅己 塩見 幸市 高橋 りう司 富岡 喜久雄 野吾 孝義 毛利 宏 八巻 萬雄 山本 二郎 若槻 健一
	共同執筆：エッセイを書いてみませんか	岩佐 直美 塩見 幸市 高橋 淳子 水田 正憲 若槻 健一
	仙厓和尚	大沼 一夫
H30	八王子にある勝軍地蔵	榊原 信夫
	太平洋戦争史と東京裁判	塩見 幸市
	高校生のための明治150年	高橋 りう司
	大東亜共栄圏と三人のインド人	富岡 喜久雄
	明治維新の「こぼれ話」	
	明治維新150年を経て－八王子に天子様がやってくる－	岡山 勅己
	魅惑のコーヒーから恋も文化も生まれた	八巻 萬雄
	武蔵守護代と忠実屋の類似性	根岸 幸雄
	「文明論之概略」から明治維新を考える	若槻 健一
	酒を飲む～日本人の飲酒性を探る	
H31 令和元年	日本書紀に出てくる地名を調べる	岩佐 直美
	「四角い月」を見た江戸時代・八王子の人びと ～八王子の近現代の災異(1)天体现象～	上原 和幸
	明治維新150年を経て－八王子驛(宿)の明治維新と風景－	岡山 勅己
	論語への旅～素読について～(中間報告)	古野 亮一郎
	八王子にある「しゃくじ」	榊原 信夫
	「元号について」	塩見 幸市
	高校生のための「植民地・民族独立運動」	高橋 りう司
	大政奉還と会津藩の末路	根岸 幸雄
	『巢鴨の父』と『世紀の遺書』の紹介	毛利 宏
	超高齢者の保護のため私住居内への立入りについて ～自治会活動の実例から～	矢巻 萬雄
R2	季節をめぐる一歳時記一考	若槻 健一
	駒沢練兵場跡地の開墾事業	岩佐 直美
	三多摩移管－神奈川から東京へ－	上原 和幸 大沼 一夫
	『日本書紀』編纂物語－7世紀の東アジアと倭国－	岡山 勅己
	高尾山探訪	古野 亮一郎
	伊勢神宮と韓神山	榊原 信夫
	第二次世界大戦の敗戦から独立(日独比較)	塩見 幸市
	駒木野関所 関守 落合家の兄弟と川村恵十郎	高橋 淳子
	神社の変遷	根岸 幸雄

年度	レポートタイトル	制作者
	明治期実業教育の展開－八王子織物染色講習所の誕生から東京府立織染学校－	柚木 駿一
	歳時記の世界	若槻 健一
	明治改暦と歳時記	
R3	10年間	岩佐 直美
	八王子流域紀行①湯殿川流域	上原 和幸
	先人達の未知の感染症に対する思い －疫病退散と庶民－	岡山 勅己
	渋沢栄一と論語	古野 亮一郎
	「伊勢と布勢」	榊原 信夫
	日本の戦後の政党史(英米比較)	塩見 幸市
	廿里合戦から戦国の世を	高橋 淳子
	高校生のための日本人と医療制度	高橋 りう司
	”面白い”とは(試案)	根岸 幸雄
	大正期埼玉県下養蚕農家の暮らしぶり	柚木 駿一
	あらためて「歳時記」から節句を考える	若槻 健一
R4	新・湯殿川風土記	岡山 勅己 岩佐 直美 上原 和幸 水田 正憲
	東照宮を守った男－石坂弥次右衛門の決断－	大沼 一夫 高橋 淳子 塩見 幸市
	無差別祝賀爆撃	上原 和幸
	大久保長安と石見堤	小島 晴治
	稽古照今(けいこしょうこん)論語伝来について	古野 亮一郎
	伊勢贄海神事と筑前国式内社志賀海神	榊原 信夫
	八王子市の発展と鉄道	塩見 幸市
	初沢城をめぐる	高橋 淳子
	高校生のための経済的危機	高橋 りう司
	透谷漫歩	南雲 信雄
	東京の変遷	根岸 幸雄
	ニュータウン開発前の南大沢－歴史を未来につなげる－	橋本 直紀
	気の研究	矢巻 萬雄
	なぜ今、満州農業移民か?	柚木 駿一
	「暦」の効用を考える	若槻 健一
R5	鬼の記憶－『鬼滅の刃』までの「鬼」の変遷をみる	若槻 健一
	自治会防犯委員長奮闘記～ご意見承りました。解決は確約出来ません	矢巻 萬雄
	大栗川の流域を調べる	岩佐直美 橋本直紀
	谷地川の流域	小島 晴治
	八王子市の町名～その歴史と変遷	是松 昭一
	南多摩のメカイ製作技術の歴史と伝承～東京都無形民俗文化財(民俗技術)第1号の指定に際して～	柚木 駿一
	高校生のための戦争と言論統制	高橋りう司
	千人同心の小倉口戦争敗走記－第2次長州征討と千人同心－	岡山 勅己
	老子について	古野 亮一郎
	「少子部蝶蠶」について考えたこと	榊原 信夫
	水の公害問題－八王子で蛍が復活した－	塩見 幸市
	高く、早く、そして快適に 京王線高架化の考察	丸山 徹
	流域紀行 高尾山周辺の川案内川の源流をめざして	高橋 淳子
	賢治の革トランクは空 宮沢賢治文学漫歩	南雲 信雄
	あの日『盆地は火の海』になった～八王子空襲から78年目の夏と薄れゆく記憶	毛利 宏 是松 昭一 上原 和幸